

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (九州)		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・外国人観光客に引っ張られている構図は依然として変わらないが、国内の客の動きも手ごたえを感じる。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・暖かくなり、花を見に来られたり、山開きなども各所で行われていることもあり、多くの観光客や登山客が来ている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・2～3月の低迷期に比べると4月は来客数も増え、少し景気が持ち直した。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・春物商戦は天候不順に悩まされ客の消費が大変鈍かったが、暖かくなり購買意欲が活発になってきた。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・花屋という職業上、卒業シーズンの3月は良かった。3月の方が良かったが、新築、退職、異動、開店祝いの花が出たので4月も良かった。これからも母の日までは良い。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来店効果の大きい催事を開催し土日祝日の来客が回復した。また、熊本地震から1年経過し、売上も増加し、購入単価が安定してきた。自家需要商品、輸入雑貨は催事を中心に好調さが続いているが、熊本地震前にはあと一歩及ばない。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・前年は熊本地震の影響があったため、その反動で本年は好転している。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・他店が全面開店したものの健闘している。市況的にはかなり良い。前年に熊本地震があったため、単純に数字だけでみると良い。弊社が前年実績を達成するのは2年2か月ぶりである。婦人服は良い。食料品については変わらずである。
		百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・前年の熊本地震では来店、売上共に苦戦したが、一昨年のペース以上に回復した。3月に暖かくならなかった季節の遅れと合わさって、春物衣料品、手土産などの新生活需要共に堅調である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・前年比で数字的には悪いが、購入点数が若干増えて、客単価も少し上がっている。暖かくなっているせいもあり、売上は順調に増えている。
		家電量販店（総務担当）	お客様の様子	・財布のひもが全く固いわけではなく、丁寧なアドバイスなどにより成約に結び付くケースが増えてきている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・前年同月比で来店客数が105%と若干増えている。前年は熊本地震の影響もあったが、今年は若干落ち着いてきて来店客数も増え、それに伴い、売上も増えた。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・前年は熊本地震の影響もあり低迷していたが、その反動もあり来場増となっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年度は熊本地震で来客数が少なかったこともあるが、それにしても来客数が伸びている。
		通信会社（営業）	販売量の動き	・市場に新商品を投入した。周知期間が短い割に、獲得量は想定を超えた。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・建設関係で大掛かりな案件が動いており、その波及効果で観光方面に影響が出てきている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・季節の変わり目で体調を崩していたが、ようやく良くなって来店した客が多数いた。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・変わらず、売上及び来客数は低迷している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・当地区では2～3か月前から一時的に県外からの客が多い。一時的なものだが飲食店、ホテルなどは潤っている。商店街も人出が多くなっている。地元客の購買意欲はあまり感じない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・行楽シーズンになるということで販売量が増える時期だが、あまり増えていない。客がなかなか購買に至らない、決められないという状況である。年金の関係で動きは少しあったが、財布のひもは固い。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・4月はいろいろな形で出費が多かったので、必要なもの以外をかうようなことがない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月は例年、来街客数が増えるが、今年は増えていないようである。前年は熊本地震があったので、その時に比べれば良いが、状況としては良くなっていない。	

一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・政府発表で景気判断の拡大とのことだが、小売店の売上はそれほど伸びていない。ただ前年比で減少していないので、少しは改善されている。天候に恵まれたのも要因である。
百貨店（総務担当）	販売量の動き	・3～4月にかけて、入店客数はほぼ前年並みで推移しているが、購入客数及び客単価が前年に及ばず苦戦している。飲食店舗については、客数増から回復傾向がうかがえる。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・百貨店の客層は中間層以上の50代以上が多いが、その客層の消費が極めて慎重になっている。特に衣料品や身の回り品の消費がかなり慎重である。季節は夏めいてきているが、軽衣料品を中心とした動きが非常に鈍い。
百貨店（営業統括）	来客数の動き	・来客数減、客単価増の動きはこれと同じ傾向である。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・春で人が動く時期になり、新生活や春物衣料の動きに期待したが、気温の上がり切らない日が続いた。売上は厳しかったものの、4月に入り桜の開花と共に動き出し、巻き返している。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・政治的不安定さや世の中の緊迫感から節約感が出ている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・今月に入って食料品の売上が前年比で厳しい。特に前年度の熊本地震需要があった分野では、半分以下と厳しい状況が続いている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・消費者の低価格志向には根強いものがあり、特に生鮮部門の売上はセール時を除けば、前年割れの状態が続いている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・気候の変化もあるが、多少は物の動きが良くなっている。しかし、牛肉や高額の商品の動きは相変わらず鈍い。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・週末の客が多い時期に天候不順で、来客数の大幅減で売上が厳しい状況である。客も必要な物しか購入しないため客単価も低い。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・春寒傾向が続き季節感がはっきりしないので、来客がほとんど見られない。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・今月は天候も回復し、本来ならば購買意欲がもっと伸びてしかるべきだが、衣料品業界においては全くそのような兆候は見られず、依然として横ばいの状態が続いている。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・主要商品は前年並みに推移しているが、来客数は微減である。
乗用車販売店（代表）	お客様の様子	・景気の良い話を聞かない。
住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・毎月の催事は横ばいであるが、店舗での販売が良くない。地域産業祭に来場者は多いが、来場者数と売上は一致していない。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は高止まりした。客の給油状況をもみも満タン及び数量限定の客の購入状況はさほど変化がなく、販売数量も前年並みである。地元で船に関するイベントが開催されたが、にぎわいは前年並みであった。
ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・4月に入り、気温が上昇してきたため、花粉症関連の商品を中心に、販売が伸びてきている。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・来客数も増加し、業績も年超過はしており悪くないが、停滞しているというのが現状である。映画館、ヨガなどのスクール、アミューズメントといったサービス業種は好調に推移しているが、ファッションを中心とした物販が大きく苦戦している。物販の購入率を向上させていくことが今後の課題と言える。
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・前年より気温が低いのか、茶葉の生育が遅く、贈答品としての新茶の販売時期が遅れ、売上が低迷している。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月は団体客がもう少しあると予想していたが、あまり入らなかったので伸びが今一つであった。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・平日昼間の来客数が横ばいである。
都市型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・上向きになっているかはよくわからないが、単月的には良い。

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・京阪神や台湾旅行の人気は続いているが、外国人観光客の動きも相変わらず活発で、座席確保が厳しい状況が続いている。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・当地では世界中の帆船が集まる祭りが行われており、家族連れ客が多く昼間の動きが良い。夜の動きはさっぱりである。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・大型連休前で月の前半は財布のひもが固かったものの、主に外国人観光客のタクシー利用が増えているので、売上減にはつながらず、後半も前年比で好調であった。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・日中の客の動きは良くないが、今月は歓送迎会で夜の繁華街の客で忙しかったが売上は今一つであった。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・年明けからずっと夜のタクシー利用が増えている。一方、昼のタクシー利用はあまり増えていない。	
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・年度明けの受注など季節的な要因を除くと、新規受注や見込み数に変わりはない。	
	競輪場（職員）	競争相手の様子	・他の競輪場のグレードレースの売上が前年比で変化がない。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・季節要因として4月以降、退院による客増が見込まれるが、30年4月からの本格的な総合事業への移行に向け、29年度より順次、認定が進んでいくため、単価下落及び売上減に向かう。	
	設計事務所（所長）	それ以外	・商店の廃業、空き家の増加が目立つ。	
	設計事務所（代表）	来客数の動き	・繁忙期だが、来客数はそれほど多くなかった。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・分譲内覧会の来場者数が伸びてこない。来てはなかなか気に入って購入というのが見えてこない。苦慮している。住宅購入はなかなか決断できない状況である。	
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・来客数の動きはほぼ変わらず推移している。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月初旬の年度初めは非常に忙しかったが、20日を過ぎると一気に客足が減少した。	
	一般小売店〔精肉〕（店員）	それ以外	・産地の人手不足で商品の入荷に制限がかかっており、大きな販売損失が生じている。	
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・新規の競合店が登場した。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・熊本地震後、好調に推移していたが、半径2キロ圏内の競合店が先日開店し、今後は売上が厳しい。流通業、特に食料品、スーパーマーケットに関しては大変厳しい状況である。青果に関しては前年比で相場も下がっており前年を達成するのが大変である。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・特に衣料品で落ちており、競合各社のチラシ、価格、テレビでの販売促進が強くなっている。食料品について、客は近隣店舗を使い分けて利用している。	
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・客単価が前年を割り始めたのが気になる。	
	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・熊本地震の影響があった前年よりは売れているが、一昨年と比較すると売上は落ちている。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・12～2月は暖冬傾向で少しずつ悪くなる感覚があり、反動でこの4～5月は若干良くなると思っていたが、4月は更に悪くなり、この状況がもう少し続く。	
	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・年度末商戦が終了し、会社全体に一服感がある。今月は月間目標に対し、実績が大きく下回る見込みである。	
	乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・前年同月比で、来客数が減少している。	
	都市型ホテル（副支配人）	お客様の様子	・中国本土からの観光客が減ってきたこと、日曜月曜の宿泊が減ってきた。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・あまり景気が良くない。政情不安も問題なのかもしれないが、おしゃれ産業は春の動きがもっとあっても良い。今一つ景気回復が望めない。	
	×	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・魚をそろえなければならないが、そろえても売れ残る。売れそうなくらいの量しか買わないのに、残ってしまう。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・理由はよくわからないが客の来店頻度が少なくなっている。来店を促すような宣伝や店のレイアウトが不足している。
企業	*	*	*	

動向 関連  (九州)	農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・暖かくなり、出荷量が増え、春休みも終わり、需要が増え、農作物の流通総量が増えた。成り疲れと天候不順で全国的に谷間となっており、供給量が減少傾向にあることも市況価格上昇の原因になっている。
	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・賃金の上昇に伴い、4月から工賃の見直しを依頼している。交通運賃も上がっているため、工賃が上がらなければ苦しい。最低賃金が毎年上がり過ぎであり、10円以上の上昇は、小企業には考えられない。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・短納期ではあるが既存客からの注文が増加してきた。ゴールデンウィーク前の駆け込み需要の可能性はある。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が若干上向いてきた。年末に比べて動きが出てきている。今月は出だしが良くなかったが、動きが良くなる傾向が出てきている。
	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・車載関連、東京オリンピックを控えてのインフラ関連、医療関連での引き合いが多い。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費財物流では、今月度は常温品・冷凍品・チルド品と全ての部門で前年比105%超の物量増である。供給金額も増加している。特に高価な催事品の供給が顕著に増加しており景気拡大がうかがえる。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・市内の有効求人倍率は、以前にも増して上がり続けているほか、近隣市町村の求人数も多く、時給合戦の様相となっている。単に景気が良くなり仕事量が増えたのかわからないが、求人広告をみる限り、新規出店などをよく見かける。感覚的に景気が上向き加減である。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店やスーパーマーケットの売上は伸び悩んでいるが、住宅建設が高水準で推移している。また、コンビニエンスストアやファーストフード店の売上が増加傾向にあるほか、自動車販売も回復してきている。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・為替、株価、外国人旅行者数は安定している。
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年は桜の開花で変化があったように、気候状況の変化が商品に大きな影響を与えている。4月の前半は菜種梅雨の影響でスーパーマーケット、居酒屋の動きが悪かったが、後半は天候にも恵まれ少し盛り返し、なんとか計画を達成できそうである。冷凍食品メーカーも絶好調とはいかないが、なんとか数字を達成できそうである。
	農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・上向きではない。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・安定した販売数量が確保できた。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年に入り上昇基調から低迷基調になっている。4月までの売上合計は数字的には前年とあまり変わらない状況だが、1～2月は前年比90%程度で推移し3月度の売上増が20%以上あった。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・特に受注、売上共に変化がない。例年この時期、案件の動きは鈍い。
	その他製造業（産業廃物処理業）	受注量や販売量の動き	・客各社の生産量が低迷したまま変わらない。
	建設業（経営者）	取引先の様子	・客との話の中で変わった動きはない。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月は年度の始めということと、ゴールデンウィークの長期休暇があるので、貨物の動向は活発である。しかし例年と比べると荷動きはあまり良くなく、問屋も必要分に少し上積みして取っている状況で、それほど良いというわけではない。
	通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・IT関連の受注に関して需要の根源となるイベントを欠いている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・韓国や台湾からの観光客がかなり増えてきているが、買物でお金を落とすところがドラッグストアやショッピングモールであって地元にお金が落ちない状況であり、地元の企業が潤うといったところまでは至っていない。
	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業は受注が回復している。特に半導体関連は好調である。鉄鋼、自動車などやや低調だった業種も受注はやや持ち直している。

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・建設業、不動産業はかなり売上は伸びているが、飲食、サービス業は全般的に人手が不足し、売上の増加を利益に結び付けるほどの受注、集客に至っていない。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・海外需要が旺盛な自動車関連企業中心に生産水準が高まってきているほか、公共工事の発注も増加傾向にある。また、企業の求人意欲は引き続き根強く、雇用者所得も持ち直してきているが、北朝鮮問題など国際情勢を懸念する先が増加してきている。
	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・3月は決算業務で忙しく外部への働きかけが少なく、また外部からの情報も少なかった。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況について聞いたが、受注量や投資について変化がない。
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・4月に入り、市町村から調査・計画業務の発注のため入札が行われているが、予算の50～60%台で入札する業者が多く、ほとんど利益が出ない落札価格となっている。70%で入札しても落札できない。発注数が少ないため、低価格でも業務を得ようとしており景気が悪い。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3～4月の焼き物業界は景気が良いが、前年比で量販店、百貨店、小売店共に受注量は落ちている。ゴールデンウィーク中の焼き物の大型催事でも前年比は大分少なく、人通りはあるものの小売の売上は落ちている。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・官公庁発注の工事量が少なく、請負中心の企業は受注が厳しい。数社支払不能先も出てきており、倒産事例も増加する。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・発注物件がまるでない時期である。官公庁の発注が本格的になるまでが大変である。自社としては民間工事の手持ち工事があるので良いが、周辺の同業者は仕事がないと嘆いている。5月の連休が明け6月にならないと官公庁の発注は期待できないと話している。早期の発注を期待している。
雇用 関連 (九州)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・直接雇用を前提とした紹介予定派遣の依頼が増えている。また、派遣会社の求人だけでなく、企業の直接の求人も増えている。
	新聞社〔求人広告〕（社員）	求人数の動き	・求人に関する新聞広告の出稿が増えている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・前年は熊本地震がありゴールデンウィークも大変だったが、今年は天候に恵まれ、商業施設や観光地も人出が多く、好調である。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・熊本地震の発生から1年が経過し、区切りの意味合いでの各種催し、大型流通店舗の新規開店・改装開店が続いており購買意欲が活発化している。広告出稿などの販売促進活動も比例して好調である。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・直接雇用を前提とした紹介予定派遣の案件が微増している。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・新年度スタートの求人数は前年同月比3%程度増である。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・生命保険会社、損害保険会社での人材不足は引き続いてきているが、他の業種での人材不足感はない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は比較的堅調に推移している。景気自体はここ数か月横ばいである。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・働き方改革の影響もあり、派遣社員の求人は増えているが人材の確保ができない。企業は利益を少なくしても雇用を増やしたいとは言っているが、ワークシェアにもなり、1人あたりの報酬は低くなる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・前年比で、取扱求人件数は減少しているものの、客単価は上がってきている。採用手段の多様化に合わせ、求人広告の枠を拡大して求職者に求人内容をアピールする傾向がある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数はわずかながら増加しているが、人員不足の他、欠員補充の比率が高いこと、人材不足分野の未充足状態の長期化による更新求人などが求人数の増加の要因であり、景気は変わっていない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年5月以降、前年同月比で20%前後増加する月が続いている。これは、熊本地震復興に伴う建設業や製造拠点の再開に伴う製造業の求人が戻ってきたことによる。

	職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	・引き続き求人数の増加傾向がみられ管内の有効求人倍率も高い水準で推移している。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・来年の卒業生の採用に向けた求人票の受理件数は、前年度同時期と比較し微増である。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・ゴールデンウィークが近いこともあるが、求人数は停滞し求職者の動きも鈍い。求職者も派遣社員から生活の安定を求めて直接雇用を目指している者も少し増えつつある。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・4月に入り若干求職者が落ち着いた。毎年ゴールデンウィーク明けから動きが出たので期待している。
x	-	-	-